



Cisco Business Edition 6000H/M のインストール

- [インストレーションの概要, 1 ページ](#)
- [Cisco Business Edition 6000H/M のインストール タスク フロー, 2 ページ](#)

インストレーションの概要

この章では、Business Edition 6000 サーバにソフトウェアをインストールするために必要なタスクについて説明します。これには、サーバにソフトウェアをインストールする方法を示す2つの主要なタスク フローが含まれます。

カスタマイズ展開の場合は、この章のタスクを使用して VMware を設定し、サーバにアプリケーション ソフトウェアをインストールします。

サーバを Business Edition Management で設定した場合は、VMware および UC アプリケーションがサーバにすでにインストールされています。追加の UC アプリケーションをインストールするのに必要なタスクだけを完了してください。

データストアにプリロードされているファイル タイプ

Cisco Business Edition サーバは、事前展開された仮想マシンに加えて、指定されたコラボレーションアプリケーションソフトウェアがデータストアにプリロードされた状態で発送されます。アプリケーション インストール用のファイル タイプの内訳を次に示します。

- **ISO ファイル** : ISO ファイルは、アプリケーション インストール ファイルを含む DVD イメージです (たとえば、Bootable_UCSInstall_UCOS_11.5.1.13900-1.sgn.iso)。UC アプリケーションの ISO ファイルは、そのアプリケーションの OVA ファイルにアプリケーション ソフトウェアが含まれていない場合にのみ存在します。

- **OVA ファイル** : 各 UC アプリケーションには、仮想マシンをパッケージ化して導入するために使用される Open Virtualization Archive (OVA) ファイルがあります。Business Edition サーバの OVA には 2 つのタイプがあります。
 - 一部の OVA は VM を定義するテンプレートで、アプリケーション ソフトウェアを含んでいません。これらのアプリケーションについては、関連する ISO ファイルがデータストアに含まれています (たとえば、`Bootable_UCSInstall_UCOS_11.5.1.13900-1.sgn.iso`)。インストールでは、OVA テンプレートを導入し、関連する ISO ファイルを使用してソフトウェアをインストールする必要があります。
 - その他の OVA ファイルは、VM を定義し、アプリケーション ソフトウェアを含んでいます (たとえば、`cpc-provisioning-11.2.0-523-small.ova`)。これらのアプリケーションについては、ISO ファイルがありません。OVA ファイルを使用して VM を導入し、ソフトウェアをインストールできます。

サーバのデータストアにプリロードされている ISO および OVA ファイルについては、サーバのプリロードサマリー (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-6000/products-release-notes-list.html>) を参照してください。



(注) シスコは OVA-ISO ディレクトリをローカルにアーカイブすることを推奨します。サーバに障害が発生した場合、代替品にはプリロード コンテンツが含まれていません。

Cisco Business Edition 6000H/M のインストール タスク フロー

Cisco Business Edition 6000 サーバにソフトウェアをインストールするには、次のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Integrated Management Controller の設定 , (3 ページ)	Business Edition 6000 サーバの CIMC を設定します。
ステップ 2	VMware vSphere Hypervisor のリモートアクセスのカスタマイズ , (6 ページ) および VMware vSphere Hypervisor のアクセスおよび設定 , (11 ページ)	Business Edition 6000 サーバの ESXi 仮想化ハイパーバイザ ホストを設定します。
ステップ 3	仮想マシンの削除 , (13 ページ)	不要な事前展開 VM を削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) Config To Order ポータルで注文したサーバについては、この手順をスキップできます。
ステップ 4	仮想マシン OVA の導入, (14 ページ)	インストールする各 UC アプリケーションの仮想マシン OVA を導入します。
ステップ 5	Cisco Unity Connection 用の仮想マシンのカスタマイズ, (16 ページ)	Business Edition 6000 の展開に Cisco Unity Connection が含まれている場合は、Unity Connection VM をカスタマイズします。
ステップ 6	アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付け, (17 ページ)	ISO ファイルを必要とする UC アプリケーションをインストールする場合は、ISO ファイルをアプリケーション VM にマウントします。 (注) ISO インストールファイルを使用するアプリケーションのリストについては、サーバの プリロードサマリー を参照してください。
ステップ 7	ゼロタッチインストールを使用した UC アプリケーションのインストール, (18 ページ)	これはオプションです。ゼロタッチインストールを使用して、次のコア UC アプリケーションをインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager • IM and Presence Service • Cisco Unity Connection • Cisco Unified Contact Center Express (注) 必要な場合は、これらのアプリケーションに手動インストールを使用することもできます。
ステップ 8	UC アプリケーションの手動インストール, (23 ページ)	残りの UC アプリケーションをインストールするには、手動のインタラクティブなプロセスを使用します。

Cisco Integrated Management Controller の設定

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) は、Cisco UCS サーバ用の管理インターフェイスです。CIMC はサーバ内で実行し、Web または SSH コマンドライン アクセスにより、サーバのリモート管理、設定、およびモニタリングを可能にします。

カスタマイズ展開および事前設定展開で Business Edition 6000 サーバの CIMC を設定するには、次のタスクを完了します。



(注) 注文した場合は、CIMC がサーバにすでに設定されています。VMware vSphere Hypervisor の設定、(6 ページ) にスキップします。

Cisco Integrated Management Controller を設定するには、次のタスクを完了します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電源オンと CIMC の初期設定	
ステップ 2	CIMC 設定の完了	

電源オンと CIMC の初期設定

サーバの電源をオンにして Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の基本的な設定を開始するには、次の手順を使用します。

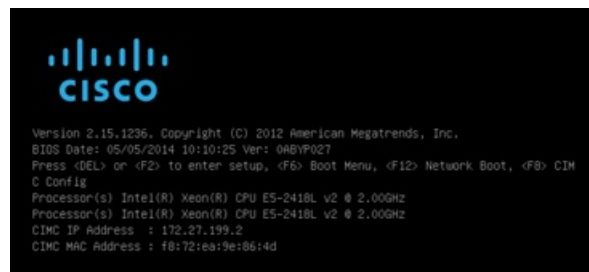
はじめる前に

『Quick Start Guide』の説明に従って、BE6000 サーバがラックに取り付けられ、電源装置に接続され、データ ネットワークに接続されていること、およびモニタとキーボードがサーバに接続されていることを確認します。

手順

- ステップ 1 電源が接続され、電源ボタン LED がオレンジ色になっていることを確認します。
- ステップ 2 サーバの電源ボタンを押し、ボタンの色がグリーンに変わったことを確認します。
- ステップ 3 モニターで起動プロセスを監視します。
- ステップ 4 青いシスコ ロゴが表示されたら、F8 キーを押して CIMC 設定ダイアログを表示します。

図 1: CIMC ブート画面で F8 キーを押す



ステップ 5 プロンプトが表示されたら、ユーザ名 `admin` を入力し、新しいパスワードを作成します。

ステップ 6 CIMC 設定画面で、次の詳細情報を入力します。

- CIMC の IP アドレス
- サブネット マスク
- ゲートウェイ IP アドレス

図 2: CIMC の IP アドレスの詳細情報を入力する

```
CIMC Configuration Utility  Version 1.5  Cisco Systems, Inc.
*****
NIC Properties
NIC mode
Dedicated:      [ ]
Shared LOM:     [X]
NIC redundancy
None:           [X]
CON[X] GE1[ ] GE2[ ] GE3[ ]
Active-standby:[ ]
GE1-GE2[X]
GE2-GE3[ ]
GE3-GE1[ ]
GE1-GE2-GE3[ ]
IPV4 (Basic)
DHCP enabled:   [ ]
CIMC IP:        172.27.199.2
Subnetmask:     255.255.255.192
Gateway:        172.27.199.1
VLAN (Advanced)
VLAN enabled:   [ ]
VLAN ID:        1
Priority:        0
Factory Defaults
CIMC Factory Default:[ ]
Default User (Basic)
Default password:
Reenter password:
*****
<Up/Down arrow> Select Items  <F10> Save  <Space bar> Enable/Disable
<F5> Refresh                  <ESC> Exit
```

ステップ 7 完了したら、F10 キーを押して変更を保存し、システムをブートします。

次の作業

[CIMC 設定の完了, \(5 ページ\)](#)

CIMC 設定の完了

CIMC インターフェイスの DNS と NTP の設定を行うには、次の手順を使用します。

はじめる前に

サーバの電源をオンにして Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の基本的な設定を開始します。

手順

-
- ステップ 1 Web ブラウザで、CIMC の IP アドレスを入力し、前のタスクで作成したユーザ名 `admin` とパスワードを使用してログインします。
 - ステップ 2 左側のメニューから [管理 (Admin)] タブを選択し、[ネットワーク (Network)] をクリックします。
 - ステップ 3 メイン画面で、[ネットワーク設定 (Network Settings)] タブを選択します。
 - ステップ 4 [共通プロパティ (Common Properties)] で、[ホスト名 (Hostname)] の設定を CIMC のホスト名に変更します。
 - ステップ 5 [IPv4 のプロパティ (IPv4 Properties)] で、[優先される DNS サーバ (Preferred DNS Server)] を DNS サーバに指定した IP アドレスに変更します。
 - ステップ 6 メイン画面で、[NTP 設定 (NTP Settings)] タブを選択します。
 - ステップ 7 [NTP の有効化 (Enable NTP)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 8 [サーバ 1 (Server 1)] フィールドに NTP サーバの IP アドレスを入力します。
 - ステップ 9 ページの右下隅にある [変更の保存 (Save Changes)] を選択します。
-

次の作業

[VMware vSphere Hypervisor のリモートアクセスのカスタマイズ](#)、(6 ページ)

VMware vSphere Hypervisor の設定

VMware vSphere Hypervisor を設定するには、次のタスクを完了します。

- 1 VMware vSphere Hypervisor のリモートアクセスのカスタマイズ
- 2 VMware vSphere Hypervisor のアクセスおよび設定

VMware vSphere Hypervisor のリモートアクセスのカスタマイズ

仮想化ハイパーバイザ (VMware vSphere ハイパーバイザ) をカスタマイズして vSphere クライアントを使用した PC からのリモートアクセスを有効にするには、次の手順に従います。



- (注) Business Edition Management から注文したサーバの場合は、[ステップ 5](#)、(10 ページ) に進みます。
-

手順

ステップ 1 ハイパーバイザが起動されると、次の図に示すように、ESXi Direct Console のユーザインターフェイスがモニタ上に表示されます。

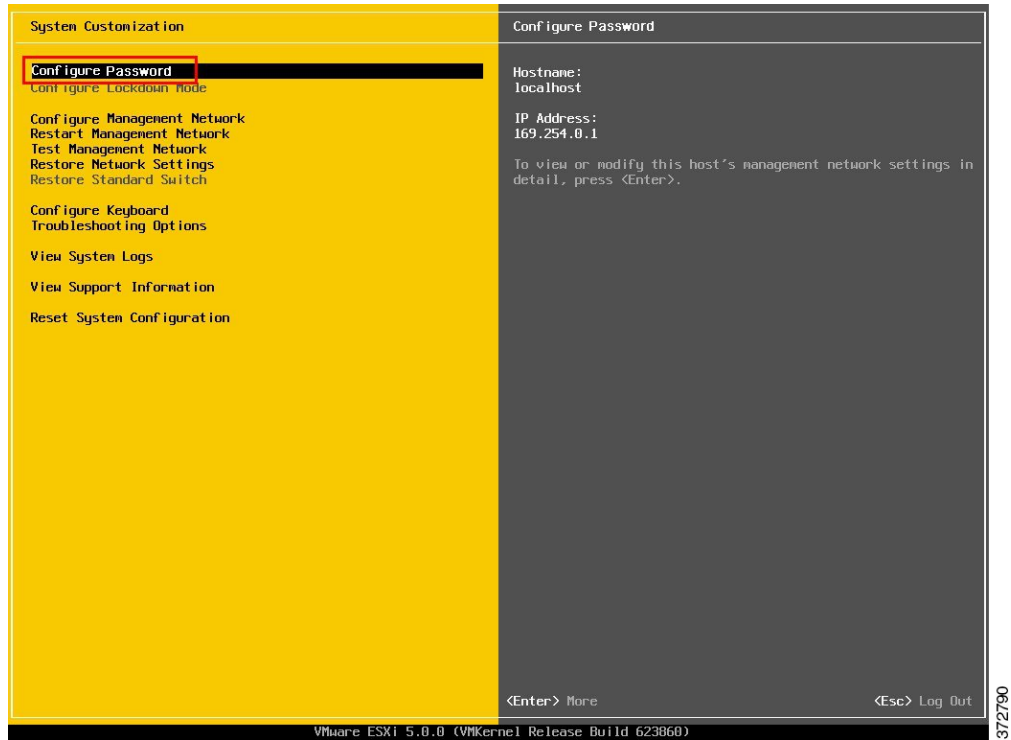
図 3: ESXi のロード後のコンソール画面



ステップ 2 F2 キーを押して、次の図に示すような [システムカスタマイズ (System Customization)] メニューに入ります。

デフォルトのユーザ名は root で、パスワードは password です。

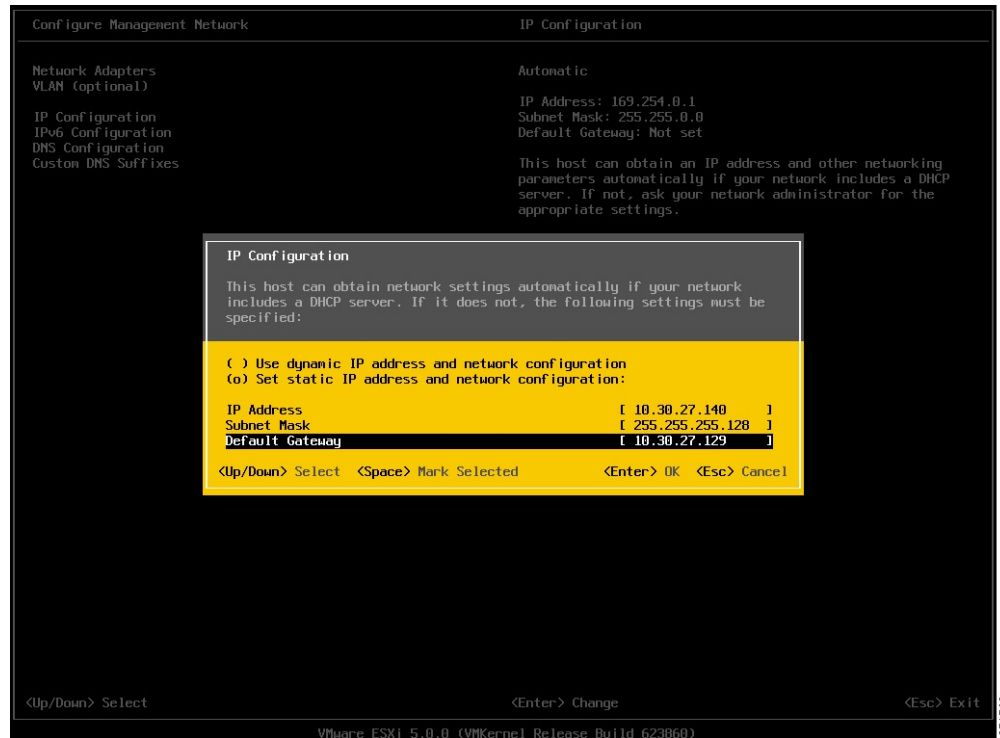
図 4: ESXi システム カスタマイズ メニュー



- ステップ 3** [パスワードの設定 (Configure Password)] を選択してパスワードを変更します。
アプリケーションが事前展開されている場合は、[ステップ 5](#), (10 ページ) に進みます。

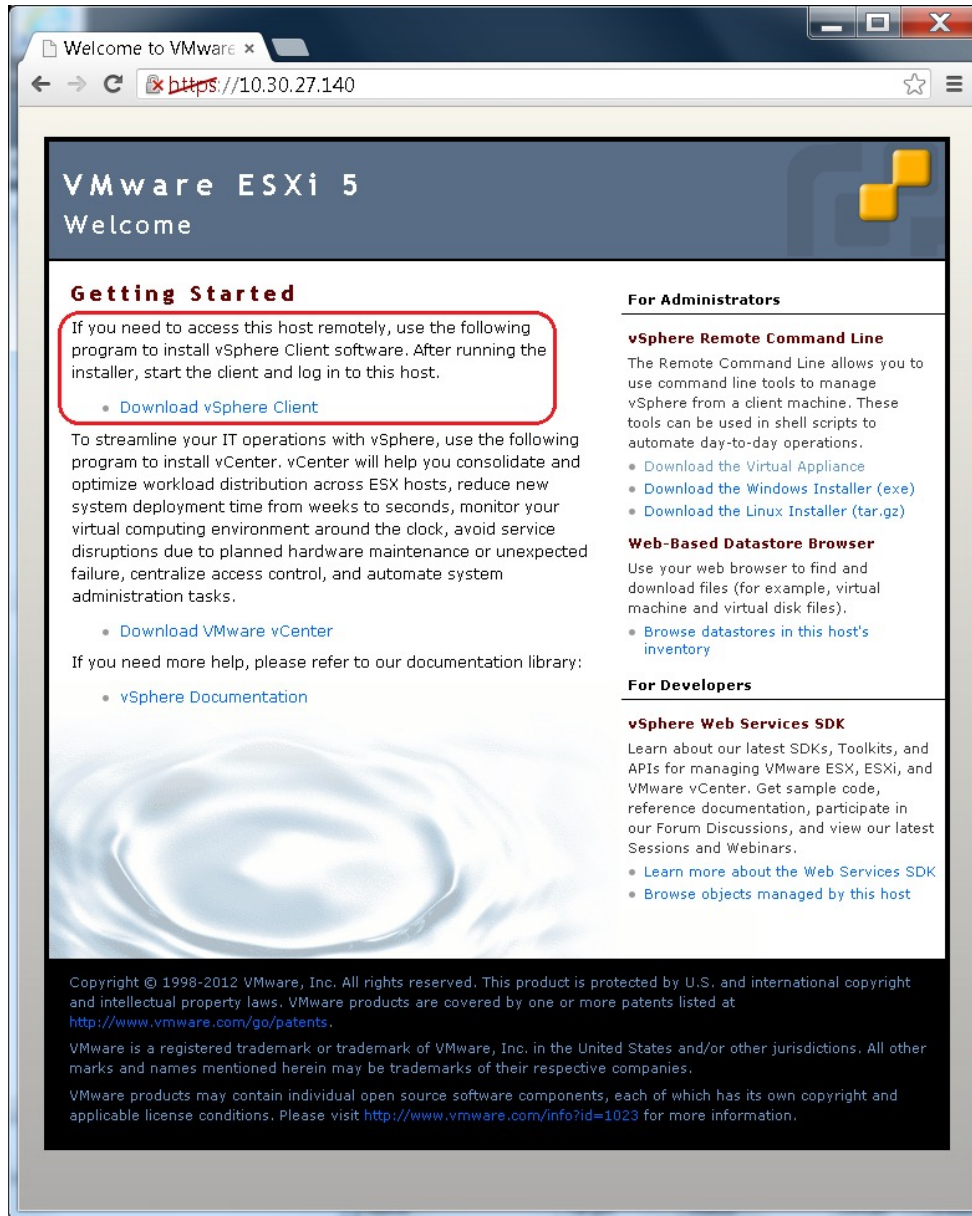
- ステップ 4** 固定 IP アドレスを割り当てるには、[管理ネットワークの設定 (Configure Management Network)] メニューを選択し、画面の指示に従って“IP の設定”を変更します。

図 5: ESXi ホストへの固定 IP アドレスの割り当て



ステップ 5 PC をデータ ネットワークに接続し、新しいハイパーバイザの IP アドレスにアクセスします。

図 6: ハイパーバイザの **Welcome** ページ



ステップ 6 vSphere クライアントが PC にインストールされていない場合は、ダウンロードしてインストールします。

vSphere クライアントは、インターネットからダウンロードするか、またはデータ ストアでアクセスできます。

次の作業

[VMware vSphere Hypervisor のアクセスおよび設定, \(11 ページ\)](#)

VMware vSphere Hypervisor のアクセスおよび設定

一部の Business Edition アプリケーションでは、ホストで有効な時間を参照する必要があります。次の手順に従って、ESXi ホストにアクセスして NTP を設定するとともに、NIC チューニング機能を使用してネットワーク インターフェイス カード (NIC) の耐障害性を設定し、プレインストールされたアプリケーションを表示し、データストアを参照して事前にロードされたコラボレーション アプリケーション ソフトウェアを確認します。

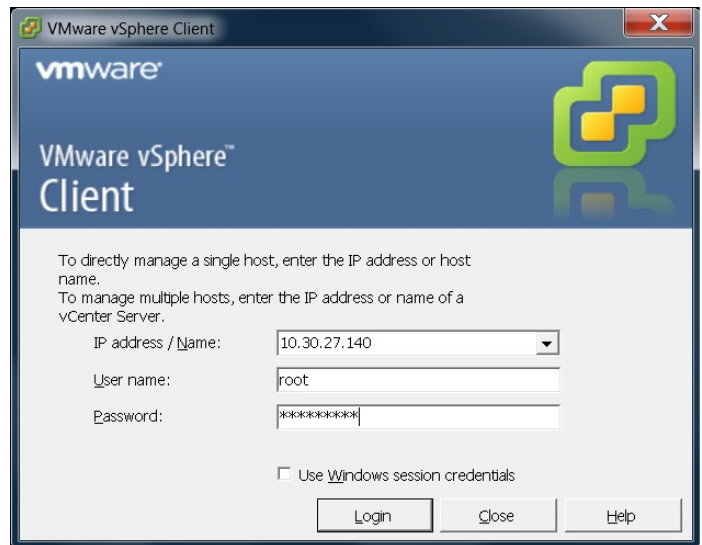
はじめる前に

[VMware vSphere Hypervisor のリモート アクセスのカスタマイズ, \(6 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** vSphere クライアント アプリケーションを起動し、VMware vSphere Hypervisor の IP アドレスを入力します。

図 7: vSphere クライアントを使用して VMware vSphere Hypervisor にアクセス



- ステップ 2** 以前に設定したログイン クレデンシャルを使用します。
- ステップ 3** (任意) Cisco UC Virtualization Hypervisor Plus のライセンスは、事前インストールされ、受け取ったときには使用できる状態にあります。ライセンスを再適用またはアップグレードする必要がある場合は、次の手順に従います。

- a) ライセンスアップグレードを注文した場合は、注文に付属するドキュメントを参照してライセンスキーを取得します。仮想化ハイパーバイザのライセンスを使用する場合、これはサーバに同梱されているマスターシリアル番号です。
(注) マスターシリアル番号は事前にアクティブ化されています。これを登録する必要はありません。このシリアル番号は2 CPU システム用にハードコード化されています。これを他のライセンスと組み合わせたり、他のライセンスに変更したり、他のライセンスで登録したりすることはできません。
- b) [設定 (Configuration)]>[ソフトウェア (Software)]>[ライセンス済み機能 (Licensed Features)]に移動し、[編集 (Edit)]をクリックします。
- c) [このホストへの新しいライセンスキーの割り当て (Assign a new license key to this host)]を選択します。
- d) [キーの入力... (Enter Key...)]をクリックします。
- e) マスターシリアル番号を入力します。
- f) [OK]をクリックして、設定ダイアログを閉じ、ライセンスを適用します。

ステップ 4 NTP の設定を行います。

- a) [設定 (Configuration)]>[ソフトウェア (Software)]>[時間設定 (Time Configuration)]の順に移動します。
- b) [プロパティ (Properties)]をクリックして、[時間設定 (Time Configuration)]画面を起動します。
- c) 時間を更新します。
- d) [オプション... (Options...)]をクリックします。
- e) [NTP 設定 (NTP Settings)]を選択します。
- f) [追加 (Add)]をクリックし、NTP サーバの IP アドレスを入力します。複数の NTP サーバを追加する場合は、このステップを繰り返します。
- g) [OK]をクリックします。
- h) [全般 (General)]>[ホストによる開始および停止 (Start and Stop with Host)]の順に選択します。
- i) [開始 (Start)]をクリックします。[OK]をクリックして [設定 (Configuration)]画面を閉じます。

ステップ 5 (任意) VMware の NIC チェーミング機能を使用して、耐障害性を設定します。

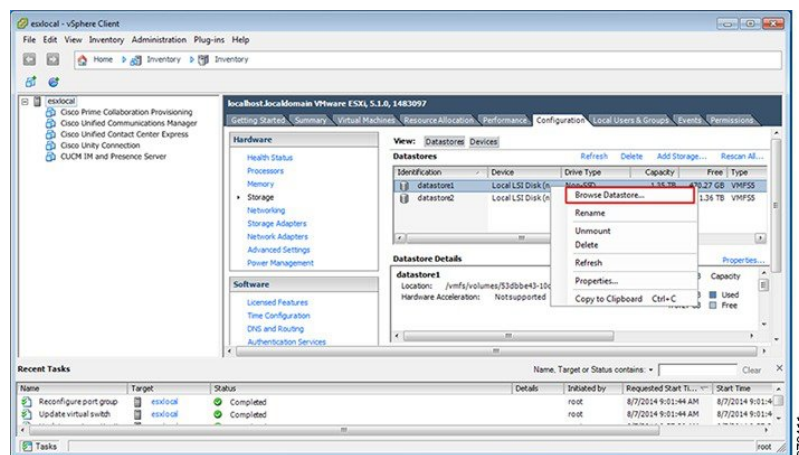
- a) [設定 (Configuration)]>[ハードウェア (Hardware)]>[ネットワークング (Networking)]の順に移動します。
- b) “標準スイッチ : vSwitch0” の [プロパティ (Properties)]をクリックします。
- c) 設定画面の [vSwitch0 のプロパティ (vSwitch0 Properties)]で、[ネットワークアダプタ (Network Adapters)]タブを選択します。
- d) データネットワークに接続されている NIC を追加するには、[追加... (Add...)]をクリックします。
- e) 対話形式の設定ダイアログに従い、下の図 5 に示すように、複数の NIC が vSwitch0 に追加されたことを確認したら画面を閉じます。
(注) デフォルトでは、ハイパーバイザで有効な NIC は 1 つだけで、vmnic0 として識別されます。

(注) チーム構成された NIC を Cisco スイッチのチャネルグループに接続する場合は、NIC チーミングロードバランシングポリシーが [IP ハッシュに基づくルート (Route based on IP hash)] に設定されていることを確認します。このポリシーおよび Cisco Collaboration アプリケーションのハイパーバイザネットワークの他の側面に関する詳細については、付録の [Business Edition 6000H/M の NIC チーミングの設定](#) を参照してください。

ステップ 6 データストアを参照します。

- [設定 (Configuration)] > [ハードウェア (Hardware)] > [ストレージ (Storage)] の順に移動します。
- Business Edition サーバのデータストアをリスト表示するには、[データストア (Datastore)] をクリックします。
- datastore1 を選択して右クリックし、下図に示すように [データストアの参照 (Browse Datastore)] を選択します。プリロードソフトウェアは /OVA-ISO ディレクトリに保存されています。

図 8: プリロードコラボレーション仮想マシンおよびプリロードソフトウェアをデータストアで参照



ステップ 7 (任意) シスコは OVA-ISO ディレクトリをローカルにアーカイブすることを推奨します。サーバに障害が発生した場合、代替品にはプリロードコンテンツが含まれていません。

次の作業

[仮想マシンの削除](#), (13 ページ)

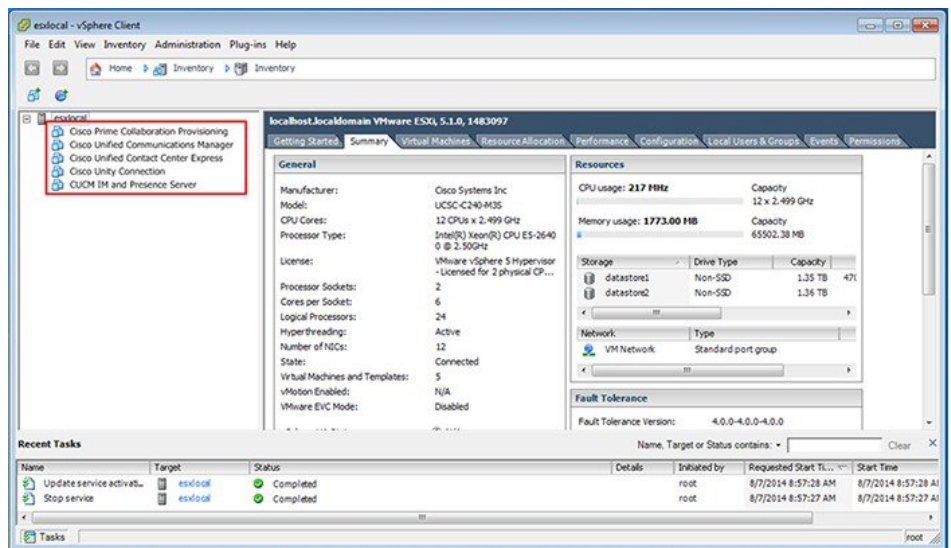
仮想マシンの削除

事前展開されたアプリケーションバージョンとは異なるアプリケーションバージョンを使用する場合は、これらの仮想マシンを vSphere インベントリから削除し、希望するバージョンをインストールします。

手順

ステップ 1 vSphere クライアントにログインします。削除する仮想マシンを見つけます。

図 9: 使用していない VM の削除



ステップ 2 VM に緑の三角形が付いている場合は、アイコンを右クリックして [電源 (Power)] > [電源オフ (Power Off)] の順に選択します。

VM の電源がオフになると、緑色の矢印が消えます。

ステップ 3 VM を右クリックして [ディスクから削除 (Delete From Disk)] を選択します。

ステップ 4 削除する仮想マシンごとに、この手順を繰り返します。

次の作業

[仮想マシン OVA の導入, \(14 ページ\)](#)

仮想マシン OVA の導入

インストールするアプリケーションごとに、適切な仮想マシン OVA ファイルを導入します。

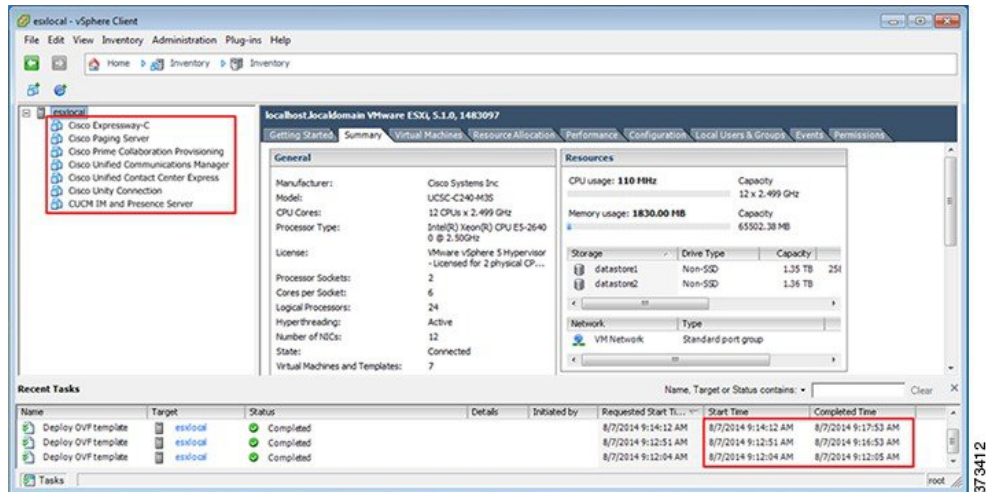
カスタマイズ展開では、デフォルトの事前展開されている VM を使用するか、古いバージョンをインストールする場合には、新しいインスタンスを導入する必要があります。新しい VM を導入する必要がない場合は、次のセクションに進むことができます。

Config To Order 展開では、追加でインストールするアプリケーション用の VM のみを導入する必要があります。



- (注) OVA テンプレートファイルは、特定アプリケーションの仮想マシンを定義します。OVA テンプレートは瞬時に導入されますが、パッケージ化された OVA の導入には時間がかかる場合があります。

図 10: vSphere クライアントに表示された導入済みのアプリケーション VM



手順

- ステップ 1** vSphere クライアント上で、[ファイル (File)] > [OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] に移動します。
[OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] 画面が起動されます。
- ステップ 2** PC 上でソースの OVA テンプレート ファイルを参照し、選択します。アプリケーションとファイル名のマッピングについては、データストアの OVA-ISO ディレクトリにある、または <http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-6000/products-release-notes-list.html> からダウンロードした『Build Summary PDF』を参照してください。
- ステップ 3** ライセンス契約書に同意するように求められた場合は、引き続き [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** 仮想マシンに意味のある名前を指定します。
- ステップ 5** 求められた場合は、導入に適切な仮想マシンのサイズを選択します。
- ステップ 6** 必要に応じて、残りのパラメータを設定します。
- ステップ 7** [ディスクフォーマット (Disk Format)] を指定するように求められた場合は、[シックプロビジョニングレイジーゼロ (Thick Provision Lazy Zero)] を指定します。
- ステップ 8** 次のタスクに進む前に、すべての UC アプリケーションの VM を導入します。

次の作業

システムに Cisco Unity Connection が含まれている場合は、次に進みます。 [Cisco Unity Connection 用の仮想マシンのカスタマイズ](#)、(16 ページ)

それ以外の場合は、次に進みます。 [アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付け](#)、(17 ページ)

Cisco Unity Connection 用の仮想マシンのカスタマイズ

カスタマイズインストールでは、次の手順を使用して、最適なパフォーマンスを確保するように Cisco Unity Connection 仮想マシンの設定を行います。

事前設定

はじめる前に

[仮想マシン OVA の導入](#)、(14 ページ)

カスタマイズインストールでは、次の手順を使用して、最適なパフォーマンスを確保するように Cisco Unity Connection 仮想マシンの設定を行います。

手順

-
- ステップ 1 vSphere クライアントの仮想マシン インベントリから、[Unity Connection] エントリを右クリックし、[設定の編集 (Edit Settings)] を選択します。
 - ステップ 2 [オプション (Options)] タブをクリックします。
 - ステップ 3 11.5 より前のバージョンをインストールする場合は、[詳細 (Advanced)] > [全般 (General)] メニューの順に選択して、[設定パラメータ (Configuration Parameters)] をクリックします。[行の追加 (Add Row)] をクリックして、次の詳細情報を入力します。
 - a) [名前 (Name)] 列に sched.cpu.latencySensitivity と入力します。
 - b) [値 (Value)] 列に High と入力します。
 - ステップ 4 Unity Connection (ユニファイドメッセージングまたは統合メッセージング) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a) [ハードウェア (Hardware)] タブを選択します。
 - b) [CPU] メニューを選択し、仮想ソケットの数を 2 に設定します。
 - c) [リソース (Resources)] タブを選択します。
 - d) [CPU] メニューを選択し、[予約 (Reservation)] を 3598MHz に増やします。
-

次の作業

[アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付け](#)、(17 ページ)

アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付け

次のアプリケーションの新しい VM テンプレートを導入した場合は、次の手順を使用して、インストールを完了するために使用する ISO インストール ファイルを関連付けます。それ以外の場合は、インストール タスクに進むことができます。



(注) このステップは、デフォルトの事前展開されている VM では必要ありません。

- Cisco Unified Communications Manager
- IM and Presence Service
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Contact Center Express
- Cisco Emergency Responder



(注) サーバのインストール ファイルの最新のリストについては、データストアの OVA-ISO ディレクトリまたは次の場所にあるサーバのプリロード サマリーを参照してください。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-6000/products-release-notes-list.html>

手順

- ステップ 1** vSphere クライアントで、UC アプリケーションの仮想マシンを選択します。
- ステップ 2** [インベントリ (Inventory)] > [仮想マシン (Virtual Machine)] > [設定の編集 (Edit Settings)] の順に選択します。
- ステップ 3** [ハードウェア (Hardware)] タブで、[CD/DVD ドライブ (CD/DVD Drive)] を選択します。
- ステップ 4** [データストア ISO ファイル (Datastore ISO File)] を選択します。
- ステップ 5** データストアを参照して、アプリケーション ISO ファイルを見つけます。
- ステップ 6** ファイルを選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 7** [デバイスのステータス (Device Status)] の下で、[接続済み、電源がオンになったときに接続 (Connected and Connect at power on)] オプションを有効にします。
- ステップ 8** ISO ファイルを含むインストール対象のアプリケーションごとに、この手順を繰り返します。

次の作業

次のいずれかの手順を使用して、UC アプリケーションをインストールします。

- [ゼロタッチ インストールを使用した UC アプリケーションのインストール](#), (18 ページ)

- UC アプリケーションの手動インストール, (23 ページ)

ゼロタッチインストールを使用したUCアプリケーションのインストール

ゼロタッチインストールを使用すると、インストールプロセスの実行中にシステムとやりとりせずに、複数の UC アプリケーションを（必要な場合は複数のホストに）同時にインストールできます。ゼロタッチインストールでは、システムを準備する必要がありますが、特に複数のアプリケーションをインストールする場合に時間を節約できます。インストールするアプリケーションが 1 つまたは 2 つだけの場合は、次のセクションに示す手動の手順を実行することもできます。ゼロタッチインストールを使用して、次のアプリケーションをインストールします。

- Cisco Unified Communications Manager
- IM and Presence Service
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Contact Center Express
- Cisco Prime Collaboration Deployment



(注) インストールを行うには、ステップ 2 以降に従います。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	アンサー ファイルの生成, (19 ページ)	UC アプリケーションのアンサー ファイル (AFG ファイル) を生成します。
ステップ 2	仮想フロッピー イメージの作成, (19 ページ)	AFG ファイルを使用して仮想フロッピー イメージを作成します。
ステップ 3	仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード, (20 ページ)	仮想フロッピー イメージをデータストアにアップロードします。
ステップ 4	仮想マシンおよびブート オプションの設定での仮想フロッピーのマウント, (21 ページ)	個々の仮想フロッピーを対応する UC アプリケーション VM にマウントします。
ステップ 5	ゼロタッチインストールの実行, (22 ページ)	UC アプリケーションのゼロタッチインストールを実行します。インストールを同時に実行することを推奨します。

次の作業

[アンサー ファイルの生成, \(19 ページ\)](#)

アンサー ファイルの生成

UC アプリケーションのゼロタッチ インストール用のアンサー ファイルを生成するには、次の手順を使用します。



ヒント ファイルが混在しないように、アプリケーションごとに生成されたファイルを保存するフォルダ（たとえば、UCM、IMP、CUC、CCX）を作成することを推奨します。

手順

- ステップ 1** オンラインの応答ファイル ジェネレータ (www.cisco.com/web/cuc_afg/) にアクセスします。
- ステップ 2** [製品 (Product)] ドロップダウン メニューから、対応するアンサー ファイルを生成する UC アプリケーションを選択します。
- ステップ 3** インストールする [バージョン (Version)] を選択します。
- ステップ 4** サーバに設定するインストールの詳細情報を残りのフィールドに入力します。たとえば、パスワード、IP アドレッシング、DNS 設定などの項目を割り当てることができます。
- ステップ 5** [アンサー ファイルの生成 (Generate Answer Files)] をクリックして、その UC アプリケーションの platformConfig.xml ファイルを生成します。
各 UC アプリケーションによって platformConfig.xml ファイルが生成されます。Cisco Unified Communications Manager では、clusterConfig.xml ファイルも生成されます。
- ステップ 6** 次のようにして、生成されたアンサー ファイルを保存します。
 - Cisco Unified Communications Manager については、platformConfig.xml および clusterConfig.xml ファイルを UCM フォルダに保存します。
 - その他の UC アプリケーションについては、platformConfig.xml ファイルを対応するアプリケーション フォルダに保存します。
- ステップ 7** ゼロタッチインストールを使用する UC アプリケーションごとに、これらの手順を繰り返します。

次の作業

[仮想フロッピー イメージの作成, \(19 ページ\)](#)

仮想フロッピー イメージの作成

アンサーファイルから仮想フロッピーイメージを作成するには、次の手順を使用します。仮想フロッピー イメージはゼロタッチ インストールで使用します。



ヒント .flp ファイルの推奨命名規則に従うことを推奨します。

はじめる前に

- 1 Winimage を使用して仮想フロッピー イメージを作成できます。Winimage は<http://www.winimage.com/download.htm>からダウンロードできます。その他のツール（BFI など）を使用して仮想フロッピー イメージを作成することもできます。
- 2 アンサー ファイルの生成, (19 ページ)

手順

- ステップ 1 Winimage で、[ファイル (File)] > [新規 (New)] の順に選択します。
- ステップ 2 [標準形式 (Standard format)] から [1.44 MB] を選択して [OK] をクリックします。
- ステップ 3 UC アプリケーションの platformConfig.xml ファイルを Winimage ウィンドウにドラッグします。
- ステップ 4 Winimage にファイルを挿入するように求められたら、[はい (Yes)] をクリックします。
- ステップ 5 Cisco Unified Communications Manager のみ。clusterConfig.xml ファイルを Winimage ウィンドウにドラッグします。
- ステップ 6 [ファイル (File)] > [名前を付けて保存 (Save As)] の順に選択します。
- ステップ 7 次の命名規則を使用して、ファイルを仮想フロッピー イメージ (.flp ファイル) として保存します。
 - Cisco Unified Communications Manager : ucm.flp
 - IM and Presence サービス : imp.flp
 - Cisco Unity Connection : cuc.flp
 - Cisco Unified Contact Center Express : ccx.flp
- ステップ 8 ゼロタッチ インストールを使用する UC アプリケーションごとに、この手順を繰り返します。

次の作業

[仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード, \(20 ページ\)](#)

仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード

仮想フロッピー イメージをデータストアにアップロードするには、次の手順を使用します。

はじめる前に

仮想フロッピー イメージの作成

手順

- ステップ 1 vSphere クライアントを起動します。
- ステップ 2 [設定 (Configuration)]タブを選択します。
- ステップ 3 [ストレージ (Storage)]を選択します。
- ステップ 4 データストアを右クリックして、データ ストアを参照します。
- ステップ 5 アップロード先のディレクトリに移動し、[このデータストアにファイルをアップロード (Upload files to this datastore)]アイコンをクリックします。
- ステップ 6 vFloppy イメージを AFG フォルダにアップロードします。
- ステップ 7 [アップロード/ダウンロード (Upload/Download)]警告で、[はい (Yes)]をクリックします。
- ステップ 8 [データストア ブラウザ (Datastore Browser)]ウィンドウを閉じます。

次の作業

仮想マシンへの仮想フロッピーのマウント

仮想マシンおよびブート オプションの設定での仮想フロッピーのマウント

UC アプリケーションの仮想フロッピー イメージを対応する VM にマウントするには、次の手順を使用します。

事前展開されている VM はすでに設定されているため、このステップは不要です。

はじめる前に

仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード

手順

-
- ステップ 1** vSphere クライアントで、UC アプリケーションの仮想マシンを選択します。
- ステップ 2** [インベントリ (Inventory)] > [仮想マシン (Virtual Machine)] > [設定の編集 (Edit Settings)] の順に選択します。
- ステップ 3** [ハードウェア (Hardware)] タブで、[フロッピー ドライブ (Floppy Drive)] を選択します。
- ステップ 4** [データストアの既存のフロッピー イメージを使用 (Use existing floppy image in datastore)] を選択します。
- ステップ 5** データストアを参照して、仮想フロッピー イメージを見つけます。
- ステップ 6** ファイルを選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 7** [デバイスのステータス (Device Status)] の下で、[接続済み、電源がオンになったときに接続 (Connected and Connect at power on)] オプションを有効にします。
- ステップ 8** [オプション (Options)] タブをクリックします。[ブートオプション (Boot Options)] で、[強制的に BIOS に移行 (Force entry to BIOS)] チェックボックスをオンにしてから、[OK] をクリックします。
- ステップ 9** ゼロタッチ インストールを実行する UC アプリケーションごとに、この手順を繰り返します。
-

次の作業

ゼロタッチ インストールの実行

ゼロタッチ インストールの実行

仮想フロッピー ドライブをアプリケーション VM にマウントしたら、ゼロタッチ インストール プロセスを実行します。すべてのゼロタッチ インストールを同時に実行することを推奨します。



- (注) VM が事前に展開されている場合は、ステップ 6 のみを実行する必要があります。
-

手順

-
- ステップ 1** vSphere クライアントで、VM を右クリックして [コンソールを開く (Open Console)] を選択します。コンソール ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** コンソール ツールバーの [電源オン (Power On)] アイコンをクリックして、仮想マシンの電源をオンにします。
- ステップ 3** BIOS 画面が表示されたら、次のブート順序を設定します。
- a) CD-Rom
 - b) ハード ドライブ
 - c) リムーバブル デバイス

d) ネットワーク

- ステップ 4** 設定を保存してコンソールを終了します。
UC アプリケーションのインストールがすぐに開始されます。
- ステップ 5** インストールする UC アプリケーションごとに、これらの手順を繰り返します。
- ステップ 6** インストールが完了したら、仮想マシンから vFloppy の設定を削除します。
-

次の作業

次のセクションで残りの UC アプリケーションをインストールするには、手動の方法を使用します。

UC アプリケーションの手動インストール

ゼロタッチ インストール オプションがない UC アプリケーション (Cisco Emergency Responder など) をインタラクティブなインストールプロセスに従ってインストールするには、次の手順を使用します。

Cisco Prime Collaboration Provisioning または Cisco TelePresence Video Communications Server のインストールに固有の詳細情報については、次を参照してください。

- [その他のアプリケーションのインストールの完了](#), (24 ページ)
- [Cisco Expressway のインストールの完了](#), (24 ページ)

手順

-
- ステップ 1** vSphere Client で、インストールするアプリケーションの VM の電源をオンにします。
- ステップ 2** VM を右クリックして、[コンソールを開く (Open Console)] を選択します。
コンソール ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 画面のプロンプトに従って、コンソールからアプリケーションをインストールします。
- ステップ 4** 手動の方法を使用して Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの両方をインストールする場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのインストールを完了した後で、次の手順を実行します。
- a) vSphere コンソールから、Cisco Unified Communications Manager CLI にログインします。
 - b) `set network cluster subscriber dynamic-cluster-configuration 24` コマンドを実行します。
 - c) IM and Presence またはサブスクリバ仮想マシンの vSphere コンソール ウィンドウを開きます。
 - d) 仮想マシンの電源をオンにします。
 - e) アプリケーションの設定情報を入力して、インストールを完了します。
- ステップ 5** インストールする UC アプリケーションごとに、この手順を繰り返します。
-

パッケージ化された仮想マシン (OVA) のインストールの完了

- [その他のアプリケーションのインストールの完了](#)
- [Cisco Expressway のインストールの完了](#)

その他のアプリケーションのインストールの完了

Cisco Prime Collaboration Provisioning、Cisco Prime Collaboration Assurance and Analytics Business、または Cisco Prime Collaboration Deployment のインストールを完了するには、次の手順を使用します。

はじめる前に

[UC アプリケーションの手動インストール](#), (23 ページ)

手順

-
- ステップ 1 vSphere クライアントで、それぞれの Prime Collaboration アプリケーション (Cisco Prime Collaboration Provisioning、Cisco Prime Collaboration Assurance and Analytics Business、または Cisco Prime Collaboration Deployment) のために導入した VM を起動します。
 - ステップ 2 VM を右クリックして、[コンソールを開く (Open Console)] を選択します。コンソール ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3 ログインプロンプトで、**setup** と入力します。
 - ステップ 4 指示に従ってインストールを完了します。
-

Cisco Expressway のインストールの完了

Cisco Expressway のインストールを完了するには、次の手順を使用します。



- (注) Cisco Expressway インストールと設定の詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/expressway-series/products-installation-guides-list.html> を参照してください。

はじめる前に

[その他のアプリケーションのインストールの完了](#), (24 ページ)

手順

- ステップ 1** 仮想マシンの電源をオンにしてコンソールを開きます。
- ステップ 2** ログインプロンプトでユーザ名として `admin`、パスワードとして `TANDBERG` を入力します。
- ステップ 3** 実行インストール ウィザードのプロンプトで、`Y` を入力して、`Enter` キーを押します。
- ステップ 4** パスワードを変更するには、`Y` を入力して `Enter` キーを押します。
- ステップ 5** プロンプトで、新しいパスワードを入力して `Enter` キーを押します。
- ステップ 6** 次の一連のプロンプトで、次のネットワークの詳細情報を設定します。
- IP プロトコル (デフォルトは IPv4)
 - IP アドレス
 - サブネット マスク
 - デフォルト ゲートウェイの IP アドレス
 - LAN のイーサネット速度 (デフォルトは auto)
- ステップ 7** SSH (セキュア シェル) の実行デーモンに対して、`Y` を入力し、`Enter` キーを押します。
- ステップ 8** すぐに再起動のプロンプトで、`Y` を入力して、`Enter` キーを押します。
- ステップ 9** システムを再起動した後に、Web ブラウザで Cisco Expressway にアクセスします。
-

■ パッケージ化された仮想マシン (OVA) のインストールの完了